.0

令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立本太中学校 ）　　学校番号　205

【様式】

目指す学校像	「未来へよりよく生きる」生徒を育む教育活動を展開する学校

重点目標	
	１　学びの自律化に向けたアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善 ２　自ら心身を鍛え、安全で健康的な生活ができる生徒の育成 ３　地域、保護者の信頼に応える学校づくり ４　研究課題「教科横断的な視点に立った資質・能力の育成」達成のための校内研修体制の充実

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日　令和６年２月７日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	学力向上について〈現状〉 ○さいたま市学習状況調査において、各学年、各教科（国語、数学、社会、理科）の平均点は、市の平均点を大きく上回っている。 ○ホワイトボードシート、タブレット、デジタル教科書（今年度は数学とＧ・Ｓ）等、ICT を活かした学びのハードが年々充実してきている。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査において、「自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか」の問いで、肯定的評価は県平均を上回っているが、これからの生徒に必要な力なので、さらに高めたい。 ○ＩＣＴ機器が故障すると、修繕に時間がかかり、学習に影響を及ぼすことがある。	・学びの自律化に向けたアクティブ・ラーニングの視点から授業改善を図れている。	①ICT を活用した授業改善を図るため、全教員の授業参観とフィードバック及び校内研修を行う。②全国や市の学習状況調査結果を分析し、指導改善研修を実施する。③長期休業中の課題に、端末による振返り学習を位置付ける。④2 学期に「本太中 STEAMS タイム」を位置付け、問題発見・課題解決学習を実施する。	①意図的・計画的な授業参観の実施と年間指導計画の見直し、教育委員会との連絡・調整によって、具体的方策が４つとも実行できている。 ②指導計画の点検や授業参観の実施で、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善が行われていることが確認できる。	①学期毎に全教職員による相互授業参観週間を設け、フィードバック面談や校内研修を実施した。「本太中 STEAMS タイム」は、昨年度の「新しい価値の創造」という研究発表の成果を活かし、今年度は地域の活性化策等、新テーマに取り組んだ。②コロナ禍に縮小傾向だった対話的な学習を、ＩＣＴも活用し、積極的に行い、各教科で問題解決的な学習に取り組んだ。	B	学びにＵＤを活かし、全ての生徒の可能性を引き出す「個別最適な学び」の実現を目指し、授業改善研修や全国や市の学習状況調査結果を分析したフィードバック研修を、年度の早い段階に位置付ける。学びの自律化に向けたアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善をさらに進めていく。	・教室環境の整備については、何気ない工夫が、授業への集中力、思考の深まりに大きな影響を与えると思われる。 ・ＵＤによる教室環境の整備、ＩＣＴによる視覚的に捉えた授業により、一層生徒たちの興味を引くと同時に、教室の効率化にもなることより大変素晴らしい。 ・先生方一人ひとりが、自分の教科の「おもしろさ」「楽しさ」を生徒にいかに伝えられるかにかかっている。
		・すべての生徒が、いつでも授業に集中できる、ユニバーサルデザイン（UD）の視点で教室環境を整えている。	①年度当初の教室経営計画立案時、ＵＤに基づく教室経営を各担任が立案、実行する。②各授業において、担任、教科担当が、ＵＤを意識した板書計画を立案、実行する。③ＩＣＴの安全な使い方を確認する全校集会や安全教室を年度当初の早い時期に実施する。	①ＵＤに基づいた教室環境の整備により、教室前面の刺激量が調整されている。また、授業時に、板書の構造化が確認できる。②ＩＣＴ機器の故障を昨年度より減らせるようにする。また、ＩＣＴ機器の誤った使い方をしていない。	①ＵＤに基づいた教室環境整備により、教室前方の刺激量が少なくなった。授業でも、課題の提示や授業の流れの明確化等、黒板の構造化が進み、生徒の授業評価でもその項目の評価が高い、②年度当初に全校集会でＩＣＴ機器の正しい利用を具体的に呼びかけ、故障が激減した。	A	今年度定着したＵＤに基づいた教室環境整備の理念を発展させ、各教室前部にカーテンを設置する等さらなる改善を図る。ＩＣＴ機器を大切に使うための集会は有効だったので、次年度も内容を工夫して０実施する。	
2	安心・安全に関する取組〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査において「学校に行くのは楽しいと思いますか」という問いや「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」等の問いに対する肯定的評価が、県の平均を大きく上回っている。 〈課題〉 ○１年生は、新しく始まった中学校生活に対する不安感があり、生活の変化が心身に与える影響も大きいため、一人ひとりの状況を丁寧に把握し、組織的に対応する必要がある。 ○今年度から令和７年度にかけて行われる、学校施設関連のリフレッシュ工事への対応が必要である。	・生徒一人ひとりの自己肯定感を高める指導を組織的に行っている。	①各学期の初めに全校生徒対象の「心と生活のアンケート」と担任による二者面談を実施し、生徒の悩みや不安に対するアンテナを高くすると共に、生徒が自己肯定感を高められるような声がけを積極的に行う。②校内委員会を中心に「報告・連絡・相談・見届け」を徹底し、学校として生徒が抱える課題に組織的に対応する。	○様々な生徒の課題に、校内委員会を中心に、迅速かつ的確に対応し、その取組を保護者や関係機関と適切に連携することができている。	①「心と生活のアンケート」の結果等、生徒の不安や悩みに、担任やさわやか相談室、生徒指導担当や教育相談担当が関り、多面的な視点からアプローチできた。また、学校行事や道徳の授業等を通じ、生徒の自己肯定感が高めることができた。②時間割に校内委員会を位置付け、定期的に実施することで、生徒が抱える課題に組織的に対応することができた。	A	①生活記録ノートや「心と生活のアンケート」に加え、次年度はＳＳＤＢの活用や、Ｓola ルームの開設により生徒の不安や悩みへのアンテナをより高くして対応を行う。②「勉強、部活動、学校行事の少なくとも三兎を全力で追え」をスローガンに、生徒が様々な活動で、自己肯定感を高めるよう努める。	・自己肯定感は、目の前の目標を一つひとつ達成して身に付くものであり、小さな目標を積み重ねて、達成感を味わってもらいたい。 ・生徒の声に耳を傾け、教職員が連携することが大切である。生徒の思いを「分かろうとする！」姿勢は、生徒に伝わると思う。 ・リフレッシュ工事中の授業計画については、学校の努力や苦労を感じる。生徒にさみしい気持ちをさせないようにする学校の思いがよく分かる。
		・リフレッシュ工事中、生徒が安心、安全に取り組める学習環境を整えている。	①保健体育科はリフレッシュ工事を考慮して、年間指導計画を作成する。また、活動の一助として、近隣の公共施設と連携を図る。②安全確保のため、担当業者と生徒の登下校や活動に関わる導線を確認し、安全指導の徹底を図る。	①リフレッシュ工事が保健体育の授業に与える影響を、最小限にできている。 ②リフレッシュ工事による、生徒の怪我等の事故がゼロである。	①保健体育の授業の年間指導計画の見直や、近隣の体育施設の活用、授業時間割を工夫することで、生徒に与える影響を最小限にすることにができた。②リフレッシュ工事に伴う生徒事故等のトラブルはゼロだった。引き続き、生徒の安心・安全に配慮を行っていく。	A	次年度は、特別棟校舎のリフレッシュ工事と校庭に仮設校舎の建設が予定されている。実技教科の授業や部活動に与える影響を最小限にするために、年間計画の見直しや代替グランドの借用等、様々な工夫に努める。	
3	開かれた学校づくりに関する取組〈現状〉 ○昨年度、学校運営協議会の方々に対し、適切な感染症対策を行いながら、学校行事や式典へご参加をいただき、協議会では生徒と直接意見交換する等、本校を理解していただくための努力を重ねてきた。 〈課題〉 ○令和４年度の全国学力・学習状況調査において「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という問いに対する生徒の肯定的評価の割合が、県平均と比較して若干低い。生徒の地域に対する関心を高める工夫が必要である。	・地域に、より学校を開くための工夫を重ねている。	①学校運営協議会の熟議に生徒を参加させる等、本校を理解していただく取組を重ね、いただいた様々なご意見を、今後の教育活動に活かす。②学校ＨＰや学校だより、学校公開等で、本校の教育活動や生徒の様子を積極的に伝えていく。	①学校自己評価に係る保護者アンケートで「学校の情報発信が積極的である」「学校が保護者や地域と協力し合って教育活動を進めている」等の問いに対する肯定的評価の割合が 80%以上になる。②学校運営協議会において、年度評価で「ほぼ達成」の評価をいただける。	①方策の評価指標の項目はそれぞれ、83%、85%で８割を超えることができた。②校則見直しについて、学校運営協議会で熟議を行った。そこでのご意見と生徒や保護者へのアンケートの結果を踏まえ、生徒会と共に、次年度の校則のさらなる見直しを行うことができた。	B	学校自己評価において「学校（教育）に関する情報を積極的に保護者に伝えていると思いますか」という問いへの肯定的評価が、昨年度と比較し 5%程下がっている。次年度は、対面での説明を増やす等、この点の改善を図る。	・地域行事で生徒を受け入れる側として、本太中の生徒に会うと、礼儀正しくよく動き、未来に期待できると感じる。このような姿も、保護者の方に見に来てもらいたい。 ・大規模災害時では、頼りになるのは中学生だと考えている。ＡＥＤの指導では、地域の人々に上手に指導出来ていた。 ・校則の見直しを生徒の目線で、生徒－保護者－教師で一緒に考えることが大切だと思う。
		・生徒が、地域に対し関心を高めるための取組を重ねている。	①４月の集団下校訓練において、各自治会の担当者から、自治会の活動と地域活動への中学生の参加について、お話をいただく。②学校地域連携コーディネーターを窓口として、生徒へ地域ボランティア活動を紹介し、積極的に参加を呼びかける。	○今年度地域から募集を求められたボランティア活動において、生徒が積極的に参加している。	①急な災害に備えるため、集団下校訓練を、年度の早い段階で実施できた。また、自治会の方のお話で、生徒が地域との結びつきを意識できた。②今年度は、24 回の地域ボランティア活動に、延べ 250 名の生徒が参加し、地域のため、生徒の成長のためになる、地域ボランティア活動を活発に行うことができた。	A	①４月に集団下校訓練を実施したが、季節外れの高温下での実施となった。災害は天気を選ばないが、生徒の体調面等、十分配慮した避難計画を立案する。②次年度もより多くの生徒が地域ボランティア活動に参加する機会を積極的に紹介する。	
4	教職員の資質向上に関する取組〈現状〉 ○今年度、さいたま市教育委員会より「教科横断的な視点に立った資質・能力の育成についての研究」の指定を受け、特に生徒の言語能力を高めるために、校内研究推進委員会が中心となって、研究推進体制を整え、組織的に研鑽を重ねている。 〈課題〉 ○調べたり、それを基に考えたりすることは好きだが、発表することが苦手な生徒が少なくない。今年度の研究発表会で、市教育委員会や他校の教員の指導や意見をいただく等、生徒の言語能力を高め、自分の考えを他者へ伝える力を身に付けさせる。	・「教科横断的な視点に立った資質・能力の育成についての研究」の充実のため、組織的な校内研修の実施と効果的な研究発表会を行えている。	①研究推進及び研究発表について、研究推進委員会を計画的に実行する。②「自己表現マニュアル」を活用し、生徒の言語能力を高める授業を全教科で実施する。③各教科で、授業の相互訪問週間を年数回程度設け、互いに授業を参観し、気付きを交換し、研修しあえる機会をつくる。③教員用の「キャリア振り返りシート」を活用し、各教員の資質向上策について、教職員との当初面談の機会等を活用し、対話に基づきながら、各教員の今後の課題を明確にしていく。	①学校自己評価に係る教職員アンケートで、校内研修推進体制の肯定的評価が 90%以上になる。②「教科横断的な視点に立った資質・能力の育成についての研究」のなかで、特に言語能力活用についての生徒の肯定的評価が 80%以上になる。③校長との面談において、各教員が現在のキャリアで必要な資質能力を身に付けているか振り返る機会を設け、今後の研修課題を明確にできている。	①学校自己評価に係る教職員アンケートで、校内研修推進体制に対する肯定的評価が 97%になり、目標を達成できた。②学校課題研究のなかで、言語能力活用についての肯定的評価は 76%で、目標を４%ほど下回った。③校長との達成状況面談において、各教員が、それぞれのキャリア段階で、今、自分は何が最上位目標なのか、振り返る機会とし、今後の研修課題を考える場とすることができた。	B	①校内研修委員会で、教職員の多様な要望を取り上げ、各研修会を通じ、その解決を図っていく。②言語能力の育成について、今年度が研究の初年度であり、次年度以降もさらに深める。③教職員の希望やキャリアに応じ、適切な校務分掌配置を行い、0JT で成長を図っていく。また個々の教職員が持つ課題解決につながる研修会の紹介、及び参加を促し、教職員一人ひとりの力を一層伸ばすことに努める。	・授業の相互参観週間の実践による教師同士の高め合いは、大きな力となると思う。 ・仕事は、70～80%の力で行い、余裕をもって生徒たちに対応することが大切だと思う。その 70～80%の質を高めることが大切だと考えます。 ・教育の世界も、技術的・概念的に新しいものが入ってくる中で、生徒だけでなく、先生方がスキルアップを図る環境が、校内外で整っていることが安心できる。